

鳥取神青通信

第11号

発行元
鳥取県神道青年会
編集
中部青年神職会

第三十七回中国地区 氏子青年・神道青年 合同研修会を終えて

鳥取県神道青年会

会長 横山 景昭



まず持つて紀宮清子様のご婚約心よりお祝いを申し上げます。

さて本会の平成十五年度を振り返って見ますと「神宮神道青年会との合同研修会」及び「第三十七回中国地区氏青神青合同研修会」と大きな事業をかかえた多忙な年度でありました。

結果的には、どの事業も盛会裡に終えることができて、本当にうれしく感謝いたしているところでございますが、このように大成功に行うことができたこ

とにあたり、会員の皆様には、惜しみない協力をいただきましたこと、諸先輩方の心強い励まし・ご指導等があったことがありがたいことであり、改めて皆様に御礼を申し上げます。

中国地区氏青神青合同研修会の準備のために、幾度と重ねた実行委員会におきまして、時には楽しく、時には厳しく話し合いを行なった事を思い出します。自分の力不足を感じ、少々落ち込んだこともありましたが、今になって思えば、大変貴

重な体験であり、一つ一つの場面等におきまして、良い勉強をさせていただいたと思っています。

本年度は、鳥取県神道青年会発足四十周年の記念の節目を迎えることとなりました。周年事業といたしまして、十七年五月に鳥取県護国神社におきまして報告祭を行う予定であります。また、別会場にて記念式典を計画いたしておりますので、会員の皆様には引き続きご尽力をいただきまして、周年事業等が滞りなく行えますよう、宜しくお願いいたします。

終わりに県内の各神社宮司様には今後とも青年会活動へのご理解及びご協力を賜りますようお願い申し上げます。

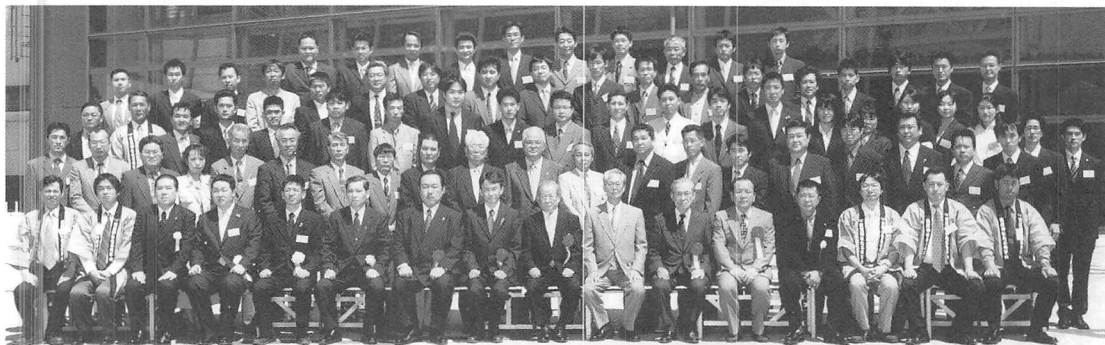


倭文神社への正式参拝

野津龍先生の講義



神社廳長さまのご挨拶



第37回中国地区氏子青年・神道青年合同研修会

平成16年6月5日 於 倉吉未来中心

神宮神道青年会・鳥取県神道青年会 合同研修会

平成十五年十一月八日、九日の両日に亘り、神宮神道青年会・鳥取県神道青年会合同研修会が開催された。会場は倉吉市の未来中心。

研修会の主題は『明日を考える』―これからの神道青年会―。参加者は二十七名であった。

初めに開講式から始まり、次に参加者各自の自己紹介が行われた。それぞれユーモアを交えた紹介が続く中、和やかな雰囲気での研修会はスタートした。

次に、鳥取県内の東・中・西部の各単位会より、各地域の郷土色・伝統芸能等の説明がなされた。各単位会を代表して、三名の講師による熱のこもった講義、そして、因幡麒麟獅子舞及び、伯耆相伝楽や舞のビデオ上映、神楽歌・神楽笛の実演などに聴衆は真剣に聞き入り、拍手がしばしば起こるとい

持ちであった。

続いて神宮神道青年会より、神宮神道青年会の年間事業についての説明がなされた後、会場をホテルセントパレス倉吉へ移動、懇親会が行われた。懇親会では各々忌憚のない話に盛り上がり、青年神職同士、相互に胸襟を開き親睦を深め合うことができた。

翌九日は、伯耆の国一ノ宮の倭文神社に全員が正式参拝を行った後、賀茂神社を参拝。各々が神恩感謝の祈念を申し上げた。

そうして全日程は無事に終了した。今回初めての交流となった神宮神道青年会と鳥取県神道青年会の合同研修会は両会員の意見交換、親睦を深めることを通じ、相互理解を深め合い青年神職として、一層の意識の向上を図ることができた貴重な得難い研修であった。

鳥取県神道青年会

副会長

櫃田

稔



合同研修会場の倉吉未来中心セミナールーム

東・中・西 単位の取り組み

東部若輩会

若輩会はお陰様で発足四十周年を迎えました。去る、八月七日には記念式典及び祝賀会を催し、諸先輩方に当会への想いやご苦労の一端を吐露していただきました。

繕奉仕

(平成十四年度より)

○卓上研修会

(発足年度より)

近年、若年会員の増加等もあり、少しずつ活動内容も広げつつあります。習ってきた息吹を着実にむすんで行きたいと思えます。

大澤祥之

◀若輩会四十周年記念祝賀会

若輩会40周年記念祝賀会



中部青年神職会

平成十六年四月二十五日、

活動としては二回目となる『健康長寿祈願祭』を琴浦町(旧

- 昭和三十八年に東部(旧因幡の国)の青年神職有志により相互の親睦と自己の研鑽を目的として活動をはじめてより、会旗・会歌を作成し、因幡相伝楽の普及や襖をはじめとするあらゆる分野の修養に努めたことなど伺い知りました。
- 四十年の永い時の移ろいのなかで培われたその活動が今尚当会の主なる活動として息づいている事こそが、まさに「若輩会」の名のごとく、戦後のただよえる混沌期に生れた葦牙が、着実に根を張り成長する姿に重なります。
- その様々な活動として本年は左記のような研修に取り組んでおります。
- ※(一)はその活動開始年度
- 夏期研修(一泊研修会)
- 因幡相伝楽の修養と視
- (昭和四十一年度より)
- 春と秋の年二回、鳥取県護国神社の例大祭において、祭典準備をはじめ衣紋着付け奉仕
- (昭和五十八年度より)
- 年末のボーイスカウト合同鳥取県護国神社清掃修

東伯町）八橋の社会福祉法人立石会ケアハウスみどり園で斎行いたしました。

会場にはおよそ六十名の入園者の方にご参集いただき、神楽を合図に祈願祭をご奉仕させていただきました。祭員は春祭りの続く時節柄、わずかに三名ではありましたが、『浦安の舞』も奉納させていただきました。地元の神主がいたこともあり、会場からは「見たことある」「あんながあそこの跡取りさんか」との声も聞かれました。

兼任の神主がほとんどの中部青年神職会の会員にとつては、自分たちで祈願祭を斎行することで、日頃は誰かの力を借りて行っている準備や、祭式作法の確認ができるよい機会となりました。また、信心の深い高齢者の皆さんと関わることで「神司」の役割を再認識することができました。

中部青年神職会では前回の『鳥取神通信』の中で「どうした中部」と最近の活動状況、参加の困難さなどを報告い

たしましたが、今年は新規会員も増えました。今年からは若い力を借りて『鳥取県神道青年会四〇周年』、『神道青年全国協議会中央研修会』などの大きな行事に向けて、少数精鋭、お互いに切磋琢磨しながら頑張っていたと思います。ファイトだ中部！

後藤裕里香

健康長寿祈願祭



西部青年神職会

西部青年神職会では、平成十五年度事業として、「神道行法練成会（禊研修）」を実施しました。

この研修を通じて心身を鍛練し、身を清めて祭祀に臨もうという思いから、研修会の日程は、祈年祭の季節を目前に控えた三月二十一日としました。

なにぶん初めてのことで、研修会場の検討も手さぐり状態でしたが、日野郡日野町「滝山神社」の佐々木宮司様のご厚意により、滝山神社境内の「竜王滝」での禊研修が実現しました。

当日早朝、緊張と不安の会場へ向かう車中で会員の目に飛び込んだのは、「一度」を表示する道路傍の温度計。吐く息は白く、冷たく冴え渡る青空の下、残雪の残る滝山神社参道を歩きながら、皆だんだんと口数が少なくなっていきました。

しかし、拝殿をお借りして白衣白袴に着替え、会員の木山典明氏から「鳥船」の行法の説明を受けて、声を出しながら身体を動かしていると、少しずつ身体が温まり、心地よい緊張感の中、不思議と落ち着いた気持ち

になりました。御神前での神行事を終え、いよいよ滝壺へ向かいます。

当初の予定では、順番に滝に打たれて身を清めるつもりでしたが、佐々木宮司様から「今日は気温が低いのでやめておいたほうがいい」とご忠告をいただき、滝壺に正座しての大祓詞奏上のみを行うことにしました。

水温は計っていませんが、おそらく五度前後であったと思います。

滝壺から見上げる竜王滝は美しく荘厳で、そこから流れ落ちる清らかな水は、初めこそ刺すような冷たさでしたが、それも忘れるほどに大祓詞奏上に集中し、無心となつて「禊」を行えたことは、何にも代え難い経験となりました。

会員の中には、これまで一度も禊の経験が無い者も多く、どのような研修になるか不安もありましたが、個々の資質の向上はもちろん、皆の大祓詞奏上の声がひとつになり、滝山公園にこだました瞬間には、会員同士

の心のつながりも、これまでに以上に強固なものとなったと感じました。

西部青年神職会では、今年度は「神道行法練成会」以外に主だった事業はおこなっていません。しかし、平成十二年度に実施した「子弟交流会」、平成十三年度に実施した「史跡めぐり」、平成十四年度に実施した「清掃奉仕」の各事業も今後継続して実施していく予定です。また、今回の経験を糧に、引き続き滝山神社での神道行法練成会も継続していきます。

末文ながら、禊を終えて戻った私たちを暖かな焚き火で迎えてくださった佐々木宮司様、この研修にあたって、残雪の残る境内を整備してくださった滝山神社氏子の皆様のお心遣いに心からの感謝を申し上げますと共に、会員一同一丸となって、今後益々神明奉仕に尽力することを約束して、西部青年神職会の今年度の活動報告とさせていただきます。

門脇泰成

鳥取神青の叡智を結集せよ！ 神道青年全国協議会 中央研修会に向けて

神道青年全国協議会
地区理事 中嶋 俊史



鳥取で中央研修会開催。

誰がかような事態を想像しただろうか？ 中央研修会って何？ 数年前、初めて参加するまで自分もそんな感覚であった。初めて参加したときの衝撃は今でも覚えている。講師陣の充実ぶり、人の多さに圧倒されたものである。そんな中央研修会をまさか鳥取県が引き受けるとは。未曾有の大事件である。しかし、これは大きなチャンスでもある。四十周年を迎えようとしている鳥取県神道青年会がさらに大きく飛躍できる好個の機会なのである。なんとしても成功させねばならない。そのためには会員一人一人の熱情と、叡智を結集させることが不可欠である。実行委員会が動き出しているが、全員参加の体制を創出しなければならぬのである。

鳥取県は他県に比べて、

不利な点もある。交通の便が悪く集まりにくい、大量の人員を収容できる施設が無い、会費数が少ない等々。しかし、鳥取県だからできることが有る筈。鳥取県もなかなかやるなあと云ってもらいたいじゃあないか。鳥取に来てよかったと言ってもらいたいじゃあないか。そのためにはやはり、会員一人一人の力が必要なのである。

終わりにりましたが、研修会を成功裡に導くには、どうしても先輩諸賢の力が必要です。現会員だけでは、視野が狭くなることもありますので、広い見地からご指導、ご助言を仰がなくてはなりません。また、今年度、中国地区氏青神青合同研修会の折には、多大な賛助金を賜ったばかりですが、ま

た平成十八年三月に向けて、お願いをしなくてはなりません。甚だ心苦しい限りですが、なにとぞご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

鳥取県神道青年会 「四十周年記念事業 に向けて」

来る五月二十八日鳥取県神道青年会発足四十周年記念事業として、奉告祭、並びに式典を開催することとなりました。

四十年と一口に言いますが、発足より現在に至るまでには様々な時代の変動と取り巻く環境の変化があった事を察し致します。この度の記念事業は、発足当時の先輩方の思い、また求めた物が何であるかを振り返り、認識する良き節目になるのではないかと考えます。私の感じるところ、神青事業への参加者の少なさ、メンバーの固定化が少し不安にも思えるのですが、私

も含め兼業神職が多いがゆえ、いたしかたのないことかも知れません。これも時代の流れと受け止め、私達は、残していかなければならない伝統を守り、これから歩むべき道を模索して参ります。必ずや鳥取県神道青年会の益々の発展を期待できる事業となることを信じております。

私も事業への参加実績が少ないのですが、今回やる気一杯です。次の四十五周年記念事業へと思いをつなげ行く所存です。

池本 靖

新入会員紹介

氏 名 井 上 雅 也
奉務神社 上小鴨神社
所 属 中部青年神職会

平成十四年に出雲大社を卒業し、現在、倉吉市の上小鴨神社で欄宜をしております。また、平成十五年より中部青年神職会に加えていただき、共に活動に参加させていただいています。今はまだ右も左も分から

ない私ですが、諸先輩方を見習い、一人前の神道人になれるよう頑張りますので、よろしく願います。



編集後記

大型の台風や地震などの災害が相次ぎ、改めて大自然的脅威を感じた本年もあと少しとなった頃、ようやく会報の編集を終えることが出来ました。

一大事業であった第三十七回中国地区氏青・神青合同研修会も無事に終わらせる事が出来、会員の結束も更に強固なものになったように思います。

最後に、寄稿頂きました皆様・編集等でお世話頂きました樫田康一氏にはご多忙中御協力頂き厚く御礼申し上げます。

渡邊 香里